

(様式2)

## 指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和5年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	県民文化部文化振興課
指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団

### 1 施設名等

施設名	長野県伊那文化会館	住所	長野県伊那市西町5776
		電話	0265-73-8822
		ホームページ	https://inabun.jp/

### 2 施設の概要

設置年月	昭和63年12月	根拠条例等	長野県文化会館条例
設置目的	県民の文化の振興と福祉の増進を図るため設置する。		
施設内容	・大ホール(1,371席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋(5室) ・小ホール(436席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋(2室) ・美術展示ホール、プラネタリウム(80席)、レストラン、駐車場(普通車590台・身障者用6台、近隣施設と共用)		
利用料金	大ホール(32,200～388,300円)、小ホール(8,500～102,400円)、楽屋(800～5,900円)、美術展示ホール(4,400～27,770円) プラネタリウム(120～400円)、その他「附属設備」「冷暖房」「持込電気器具電気料」など		
開所日	毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日から1月3日まで)及び保守点検日を除いた日		
開所時間	通常:9:00～17:00、最長:8:00～21:30(ただし、美術展示ホールは18:00まで)		

### 3 現指定管理者前の管理運営状況

期間	管理形態	管理受託者又は指定管理者等
～平成17年度	管理委託	財団法人長野県文化振興事業団
平成18年度～20年度	指定管理	財団法人長野県文化振興事業団
平成21年度～25年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団
平成26年度～30年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団

### 4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日(5年間)
選定方法	非公募		

### 5 指定管理料(決算ベース)

令和5年度(A)	令和4年度(B)	差(A)-(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
220,055 千円	200,231 千円	19,824 千円	
	増減理由	原油価格高騰による光熱費の価格上昇等へ対応したこと及び、令和4年度は空調工事に伴う休館の期間があり、管理費・事業費が縮小していたため	

### 6 指定管理者が行う業務

・施設及び設備の維持管理に関する業務 ・文化会館の利用の許可及び利用料金に関する業務 ・芸術文化の振興に資する事業の企画及び実施に関する業務 ・上記業務に附帯する業務
--

### 7 利用実績等

#### (1) 利用実績【指標:稼働率】

(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和5年度(A)	21.9	51.2	51.0	76.9	66.4	66.7	66.9	74.0	51.8	41.7	74.8	64.0	58.9
令和4年度(B)	42.3	40.4	59.6	62.9	48.5	71.6	73.9	69.7	68.8	0.0	0.0	12.5	45.9
(A)/(B)	51.8	126.7	85.6	122.3	136.9	93.2	90.5	106.2	75.3	-	-	512.0	128.6
増減要因等	令和4年度は空調改修工事に伴う休館の期間あったことや、コロナウイルス感染症の影響が徐々に薄れてきたことで稼働率が向上した。												

#### (2) 利用料金収入

(単位:千円、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度(A)	1,093	855	1,021	1,505	4,252	2,374	2,523	2,216	2,654	1,752	1,363	1,230	22,838
令和4年度(B)	1,082	3,185	2,007	3,492	1,717	4,471	2,559	2,738	2,086	0	0	▲660	22,677
(A)/(B)	101.0	26.8	50.9	43.1	247.6	53.1	98.6	80.9	127.2	-	-	▲186.4	100.7
増減要因等	稼働率は上がっているが、減免対象件数が増加したため、利用料金はほぼ前年と同程度となった。												

(様式2)

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
なし	

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和5年度(A): 280日	令和5年度(A): 9:00~21:30	無	
令和4年度(B): 300日	令和4年度(B): 9:00~21:30		

(5) サービス向上のため実施した内容

申込期限を過ぎても可能な限り期間外申請を受けるなど、利用者の要望に応えた。  
また、閑散期(4月)の割引、申込期限(40日前)を過ぎてからの時間貸し制度を行うなどして利用促進を図った。

(6) その他実施した取組内容

建物周囲・ロビー・洗面室等の清潔さを確保するほか、植栽の管理を行った。

(7) 利用者の主な声及びその対応状況

利用者懇談会や運営協議会を開催し、来場者の減少傾向対策、広報・宣伝の強化、大・小ホール、美術展示ホール、プラネタリウムを連動する自主事業の企画や来場者に本来の目的以外の催事を案内し鑑賞機会を増やす取組みのほか、子どもの文化芸術の鑑賞機会の増大や芸術文化活動の受け入れ先としての会館のあり方、部活動の地域移行の問題などについて多くの意見をいただき、今後の運営に役立てることができた。  
これからは、来場者の減少傾向への対策のひとつとして今以上に広報・宣伝に力を入れ、当館の強みである美術展示ホール、プラネタリウムをホールと連動・活用するなど、施設機能の相乗効果を活用した運営・事業を展開していく。  
また、当館を多く利用する次世代を担う子どもたちに対しては、貸館や自主事業を通じて、文化芸術の振興・支援を積極的に講じてまいりたい。

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指定管理者	所管課	評価
施設の目的に沿った管理運営	<p>「県民の文化振興と福祉の増進」を使命として、「提案書」「計画書」に掲げた目標達成に努めた。</p> <p>管理運営者として要求される「サービスの向上」と「経費の縮減」に沿って、管理運営を行ってきた結果、主要業務である「施設管理」「貸館事業」「自主事業」において、概ね計画どおり業務を遂行できた。新型コロナウイルス感染症は概ね収束し、貸館や予定していた自主事業は実施することができた。</p> <p>管理運営については、安全な施設管理を行うとともに、電力料金が高騰するなか電力使用量の節減を図るなど環境に配慮した運営に努めた。</p> <p>財政的にも効率的な運用に努めた結果、8万3千余円の純損となったものの、ほぼ計画どおりの収支となった。</p> <p>貸館事業においては、利用者の平等利用に努め、利用者の立場に立った貸館サービスを行った。</p> <p>このように、幅広いニーズに対応した事業を展開し地域文化の振興に貢献することができた。</p>	基本協定書、仕様書及び年度計画書に基づいた管理運営が実施されたと認められる。	B
平等な利用の確保	<p>・会館を利用しようとする人・団体に対しては、制限をしていない。</p> <p>・主に南信地域の幅広い地域の人々へ、またグループ・個人を問わず学び、参加し、創造し、発信しようとする幅広い県民へ、平等公平な利用の確保に努めた。</p>	平等な利用が確保できたと認められる。	B
利用者サービス向上の取組	<p>・ホームページ、SNS、メディア(プレスリリース)、「イベントガイド」等で県民への情報提供を図った。</p> <p>・イベントアンケートや運営協議会、利用者懇談会等を通じて利用者意見を取り入れた。</p> <p>・自主事業において25歳以下のチケット料半額割引制度を導入し、若者が良質の文化芸術の鑑賞を得やすくした。</p>	<p>・HPの更新や、新たな割引制度の導入等により、利用サービスの一層の向上を図っている。</p> <p>・アンケートや利用者懇談会等を通して利用者のニーズの把握に努め、利用者の意見に対して柔軟に対応している。</p>	A

項目	指定管理者	所管課	評価
自主事業	<p>開館35周年記念として、NHK交響楽団の特別公演や、こども向けのオペラシアターこんにやく座「ルドルフとイッパイアッテナ」や南信地域出身の男女二人組ロックユニット「GLIM SPANKY」によるポピュラーコンサート、また特別企画として人間国宝五街道雲助師匠を筆頭に豪華な顔ぶれによる「伊那ぶんぶん寄席」など37事業を実施した。</p> <p>幅広いニーズに対応した事業を展開し、全ての事業においてチケットは完売となった。多くの皆さまに大変喜んでいただき、地域文化の振興に貢献することができた。主な自主事業の状況は以下のとおり。</p> <p>ア オペラシアターこんにやく座公演「ルドルフとイッパイアッテナ」(7月17日) 小さな子ども達にも分かりやすい日本語のオペラ作品を上演した。家族で楽しめる作品は、音楽と演劇の両要素を持ち合わせ、気軽に楽しんでいただくことができ大好評だった。</p> <p>イ アルプス・ユースコーラスフェスティバル(9月3日) 上伊那地域の中学校及び高等学校の合唱部生徒が共に集い、聴き合い歌い合う合唱祭を開催した。昨年度は中止となったが、今年度は中学校4校、高校生5校の生徒同士が交流を図り、練習の成果を思う存分発揮した。若々しい歌声がホールいっぱいに響き渡った。</p> <p>ウ NHK交響楽団 伊那公演(9月24日) 日本を代表するオーケストラであるNHK交響楽団による特別演奏会を実施した。指揮には古楽界の名匠トン・コープマンと、フルート独奏にはN響首席フルート奏者 神田寛明氏を迎え、モーツァルトが10代で作曲した若さあふれる交響曲から晩年の円熟した交響曲まで、オール・モーツァルトプログラムでモーツァルトの魅力をご堪能いただいた。</p> <p>エ ポピュラーコンサート「GLIM SPANKY LIVE2023」(10月14日) 南信地域出身の男女二人組ロックユニットによるポピュラーコンサートを実施した。親近感からか来場者の年齢層は幅広く、二人の地元愛溢れるトークとライブは観客と一体になり、大いに盛り上がった。</p> <p>オ アウトリーチコンサート(2月13日・14日) 障害を持つためにコンサートに足を運ぶことが難しい子ども達を対象に、気軽に音楽を鑑賞できるコンサートを開催し、誰もが音楽を楽しむことができる機会を提供した。</p> <p>13日は伊那養護学校小学部の低学年と高学年を対象に2公演を、14日にも伊那市内小中学校の特別支援学級の子どもたちを対象に2公演を実施した。30分程度のコンサートは鑑賞するだけでなく、音楽を使ったワークを内容に取り入れることで、子どもたちが音楽に合わせて自由に表現する姿が見られた。また、間近で演奏に触れることで音楽を身近に感じてもらうことができた。</p> <p>カ 美術展示ホール 「トライアルギャラリー2023(若手作家の公募個展)」(7月7日～23日)、長野県立美術館との共同主催で行った「2023長野県立美術館移動展 in 伊那文」(11月3日～12月3日)と、「伊那谷で育った中村不折に続け！子どもたちの書初め書道展」(2月17日～25日)を開催した。トライアルギャラリーでは、若手作家の感性溢れる作品を多くの方に鑑賞していただいた。県立美術館移動展では、南信地域で県立美術館の収蔵作品を観る機会を提供することができ、地域の方々にも大変好評であった。子どもたちの書初め書道展では、のびのびとした子どもたちの作品と共に中村不折の作品を紹介し、郷土の偉人「中村不折」を知るきっかけを作ることで、地域文化の振興につなげることができた。</p> <p>キ プラネタリウム 信州天文文化100年展(8月5日～27日) 博物館等とのネットワークを活用し、美術展示ホールで開催した。長野県の観測環境の100年の歴史を感じる資料の数々と現在に至る努力を学ぶことができる展覧会となった。</p> <p>コラボ・プラネタリウム 地元にはゆかりのある人たちとの音楽や演劇などのコラボレーションイベントを実施した。「星降る癒しのコンサート～みんなで奏でる『まあい宇宙』」(9月30日・10月1日)では、今年誕生したプラネタリウムのテーマソングのお披露目コンサートとし、作詞、作曲を手掛けた、上伊那出身で地元でも活躍されているシンガーソングライターとバンド&amp;ダンスの2組のアーティストを迎え、コンサートを開催した。癒しの歌声と、演奏、ダンスとのコラボレーションがプラネタリウムと一体となり、ドームの星空に響き渡った。</p> <p>また、特別投影会「長野県の星空からウクライナの星空へ」(3月9日)を実施した。現在、日本に避難しており、ウクライナのプラネタリウムで解説員をされていた、オレナ・ゼムリヤチェンコさんに星空解説をしていただいた。</p> <p>「伊那小学校6年明組手作りプラネタリウム投映会」(2月7日)と、「東部中学校演劇部公演」(3月24日)では地元の小中学生と一緒にいった。高校演劇が盛んな地域ではあるが、中学校の演劇は珍しく学校以外での発表の場がほとんどない。そんな中学生に発表の場を提供するとともに、普段プラネタリウムになじみのない方が足を運ぶきっかけや、プラネタリウムの幅広い活用をPRすることに繋がった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行後最初の年であり、開館35周年という記念の年にふさわしい、満足度の高い事業が実施されるとともに、美術やプラネタリウム(天文)など施設の特色を活かした事業が広く展開されている。</p>	A
職員・管理体制	<p>職員17人。 協定書(事業計画書)に基づき館長、副館長、総務課・事業課・舞台課を配置。 課長等以上で構成する検討会議を設置し、管理運営等事項について検討・決定した。検討結果については、調整会議、各課会等で全職員に周知徹底した。</p>	<p>仕様書及び年度計画書に基づく適正な職員配置が行われている。</p>	B

(様式2)

収支状況	一般会計は、収入242,301千円に対し支出242,384千円であり、収支差額83千円の赤字となった。	効率的に館運営が行われていると認められる。	B
総合評価	<p>自主事業では、開館35周年記念として、NHK交響楽団特別講演、子ども向けオペラ「ルドルフとイッパイアッテナ」、ポピュラーコンサートとして「GLYM SPANKY」のほか「伊那ぶんぶん寄席」を行い、いずれも盛況であった。</p> <p>また、足を運ぶことが難しい養護学校(小学部)や小中学校の特別支援学級の子どもたちを対象にアウトリーチコンサートを開催した。</p> <p>美術展示ホールでは若手作家の公募展「トライアルギャラリー2023」や郷土の偉人中村不折の作品紹介を兼ねた「子どもたちの書初め書道展」を開催、プラネタリウムでは、地元で活躍するシンガーソングライターとバンド&amp;ダンスのアーティストによるコラボプラネタリウムなど、幅広く精力的に事業を企画・実施した。</p> <p>管理運営面においては、多くの声に耳を傾け、県民サービスの提供を行い、財政面においても、物価上昇の局面ではあったが、効率的な運用に努めた結果、わずかな純損を出したが、概ね計画どおりの収支となった。</p> <p>空調設備工事(R4.12.19からR5.5.31)も予定どおり進められ空調環境が整ったほか、美術展示ホールや、大小ホールを除くすべての照明をLED化し、照明環境の整備と省エネを進めた。</p> <p>このように、全職員が一丸となって事業運営に取り組んだ結果、求められる成果を十分果たすことができたと評価している。</p>	館の特長を生かし、地域と連携した事業の実施が認められた。概ね仕様書等の内容通りの成果があり、適正な管理運営が行われている。	B

<評価区分> A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。  
 B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。  
 C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。  
 D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項目	指定管理者	所管課
施設の管理運営の課題	<p>人口減少、少子高齢化、趣味嗜好の多様化の進展のほか経済環境の変動等により、貸館・自主事業の集客について今後、厳しい状況が見込まれる。</p> <p>このような中、当館が、南信地域の文化芸術振興の拠点として、その使命を果たしていくためには、内外の環境変化に対応しながら、安全・安心で快適で使いやすい会館を基本に、リニューアルした大・小ホール等は今より当館の強みである美術展示ホールやプラネタリウムの効果的活用を積極的に図り、心に刻まれる魅力あふれる事業を展開していくことが必要である。</p> <p>そのためには、会館以来リハーサル室がなく楽屋も不足がちで、さらに駐車場スペースの恒常的な不足によりお客様に不便を強いていることや空調設備、大・小ホールの照明・音響設備の老朽化、美術展示ホール等の照明のLED化等が課題である。</p> <p>日々の業務については、急速に変化している会館を取り巻く環境変化に的確に対応するため、前例踏襲ではなくスクラップ&amp;ビルド(合理化)の見直しが必要である。</p> <p>さらに、社会のIT化が急速に進展しているなか、利用者・顧客サービス向上のほか業務効率化のためにも、利用料金支払いのキャッシュレス化など業務のIT化対応が求められている。</p> <p>当館を老若男女・障がいの有無や地域を問わず広く多くの方々に利用していただくためには、広報宣伝は重要な課題である。大・小ホールや美術展示ホール、プラネタリウムといった会館の魅力やイベント情報を適時・的確かつ効果的に県民に周知し来館してもらえるよう、広報宣伝の媒体、エリア、数量、内容等を改めて見直し、改善していくことが必要である。</p> <p>人材育成の面では、専門性・経験・技術の継承を確保する職員研修等をさらに充実させていく必要がある。</p>	<p>・施設や設備の課題に対しては、県全体のファシリティマネジメントの中で、計画的な修繕、改修を行っていく。</p> <p>・利用者サービスの更なる向上のための取組をお願いしたい。</p> <p>・社会経済情勢や人口動態を踏まえ、リニューアルした設備を活かすなど、引き続き特色ある事業を展開し、利用者の確保に努めていただきたい。</p>

(様式2)

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日:令和2年11月10日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
地域に密着した施設の特徴を活かした取組を、地域と協力して進めるとよいのではないかと。	美術展示ホールを活用した地域の小学生の書道展のほか地域の中学生がプラネタリウムとコラボレートする演劇や隣接する公園での天体観望会を行っている。	館の特徴である美術展示ホールとプラネタリウムを活かして、地域の小中学生と協力した事業が行われている。
施設利用料金の減免制度について積極的な広報を行い、利用者の増加を図る取組をお願いしたい。	施設利用料金の減免制度については、ホームページで紹介しているほか、外部からの問い合わせや初めての利用時には、丁寧に案内している。	減免や割引制度について幅広く周知いただき、引き続き利用促進につながる取組をお願いしたい。
託児サービスの一層の充実や、親子で来館できるサービスの充実をお願いしたい。また、地域(中学校、高校等)の行事を含めながら、身近で親しめるようなものを行うことは、利用者のサービスの向上につながると思う。	リニューアルしたプラネタリウムでは新しく親子席を設けた。地域の学校行事(入卒式、文化祭等)やクラブ活動にも多く利用していただいている。	引き続き多くの地域住民に気軽に足を運んでいただけるよう、広報等に取り組んでいただきたい。
今後スマートフォン、パソコンを使って情報収集を図る傾向は一層強まると思われることから、利用者目線に立ったホームページの充実に努めてほしい。また、フェイスブックやツイッターなど、SNSでの情報発信を進め、若年層への情報提供をより積極的に行ってほしい。	ホームページについては、令和3年4月にリニューアルし、利用者にとって、よりわかりやすくなるよう改善した。フェイスブックやツイッターによる情報発信についても令和3年度から実施しており、若年層を含む広い年代層へ情報提供を行っている。	ホームページのリニューアルなど、利用者目線の情報発信に努めている。SNS等を利用した、効果的な情報発信を引き続きお願いしたい。
地元の中・高校生の利用も多いことから、地元の中・高校生や出身者が鑑賞者、あるいは出演者となり、次世代の文化の担い手となるような自主事業は、当施設の特徴を活かした企画となると思われる。	地域の小学校の合唱団等や当館のジュニアオーケストラ(小学生から高校生までを対象に育成している弦楽アンサンブル)などが参加して行う合同演奏会を実施した。また、上伊那地域の中学校及び高等学校の合唱部生徒が共に集い、聴き合い歌い合う合唱祭を実施するなど、次世代が文化の担い手となるような自主事業に努めている。	地元の中・高校生が参加できるような、会館の特徴を活かした自主事業を引き続き実施いただきたい。
職員体制について、事業課長などの欠員がみられるが、組織運営上支障のない配置に配慮してほしい。	適正な職員配置については、従前より事務局に要望しているところである。欠員に対しては、職員同士が協力するなど、組織全体で対応している。	利用者サービスとの均衡を図りながら、弾力的な勤務体制による運用をお願いしたい。